

<症例 1> 67 歳 男性

【現病歴】

2016 年から慢性 C 型肝炎にて、B 病院で INF 治療を受けていた。

2023 年 3 月 22 日の定期的腹部超音波検査で肝右葉に 35mm 径の腫瘤を認め、AFP も上昇傾向であることから、肝細胞癌の診断で、精査・加療目的に当院に紹介。

【経 過】

2023 年 4 月 13 日 当院消化器科を紹介初診。

2023 年 4 月 21 日 上腹部 CT 施行。

所見: S5 に 35mm 径の腫瘍を認める。S6 に 10mm 径、S8 に 15mm 径の腫瘍を認め、多発性の肝細胞癌と考えます。

造影 CT 門脈相で P5 から前区域枝を閉塞する腫瘍栓を認めます。

2023 年 4 月 27 日 造影所見などから、肝細胞癌と診断。

3 つの腫瘍に対して TACE を行う旨、本人と家族に説明。

2023 年 5 月 18 日 治療目的に入院。

2023 年 5 月 19 日 血管造影施行。S5 に 35mm、S6 に 11mm、S8 に 15mm の濃染する HCC を認めた。門脈相では前下垂区域枝(P5)および前区域枝まで途絶・狭窄を認め、門脈侵襲と考えられたが、P point は描出されており、門脈右枝には及んでいないと考えられた。

2023 年 5 月 24 日 TACE 施行。

2023 年 5 月 26 日 経過良好にて退院。

症例番号

110 重複番号		710 鏡視下治療		510 UICC cT	
140 性別		711 鏡視下治療 施行日		520 UICC cN	
300 原発部位 《局在コード》		715 鏡視下治療 (開始前・他施設)		530 UICC cM	
309 原発部位 《テキスト》		716 鏡視下治療 (開始後・他施設)		540 UICC c付加因子	
310 側性		720 内視鏡的治療		500 UICC cステージ	
320 病理診断 《形態コード》		721 内視鏡的治療 施行日			
329 病理診断 《テキスト》		725 内視鏡的治療 (開始前・他施設)		610 UICC pT	
330 診断根拠		726 内視鏡的治療 (開始後・他施設)		620 UICC pN	
350 当該腫瘍初診日		730 観血的治療範囲		630 UICC pM	
360 他施設診断日		740 放射線療法		640 UICC p付加因子	
370 自施設診断日		741 放射線療法 施行日		600 UICC pステージ	
380 診断日		745 放射線療法 (開始前・他施設)			
400 診断施設		746 放射線療法 (開始後・他施設)		550 規約肝cステージ	
410 治療施設		750 化学療法			
420 症例区分		751 化学療法 施行日		580 c進展度	
450 来院経路		755 化学療法 (開始前・他施設)		680 p進展度	
460 発見経緯		756 化学療法 (開始後・他施設)			
470 病名告知の有無		760 内分泌療法			
700 外科的治療		761 内分泌療法 施行日			
701 外科的治療 施行日		765 内分泌療法 (開始前・他施設)			
705 外科的治療 (開始前・他施設)		766 内分泌療法 (開始後・他施設)			
706 外科的治療 (開始後・他施設)		770 その他の治療			
		775 その他の治療 (開始前・他施設)			
		776 その他の治療 (開始後・他施設)			
		780 経過観察選択			
		790 緩和的治療			

<症 例 2> 70 歳 男性

【現病歴】

2018 年から肝血管腫のため、A 病院で年 1 回の CT 検査を受けていた。2023 年 3 月の定期検査時に、血管腫とは別に S8 に 45mm 径の腫瘍を認めたため、精査目的に当院紹介。

【経 過】

- 2023 年 4 月 13 日 当院消化器科を初診。
- 2023 年 4 月 18 日 上腹部 CT 施行。S8 に 45mm の腫瘍を認める。造影効果などから肝内胆管癌と診断。肝内胆管の拡張も著明です。
- 2023 年 4 月 21 日 腹部超音波検査。造影効果などから肝内胆管癌の所見です。他臓器への転移は認めません。
- 2023 年 4 月 27 日 画像所見から腫瘍形成型肝内胆管癌の診断。手術を行う旨、本人と家族に説明し、了承された。
- 2023 年 5 月 10 日 手術目的で入院。
- 2023 年 5 月 12 日 右肝部分切除施行。
- 2023 年 5 月 25 日 経過良好にて退院。

《病理報告》

Combined hepatocellular and cholangiocarcinoma

40mm の腫瘍は肝細胞類似の異型細胞が索状構造を形成して増殖しており中～高分化型の肝細胞癌の所見を認めた。また核小体が明瞭化した異型核と淡明な細胞質を有する異型細胞が、充実性に増殖している腺癌の所見を認めた。

腫瘍は肝細胞癌と肝内胆管癌へ明瞭に分化した成分が混在しており、混合型肝癌と診断した。

郭清リンパ節に転移は認めない。

Vp1, vv1, va0, b0, p0, Cur B

症例番号

110 重複番号		710 鏡視下治療		510 UICC cT	
140 性別		711 鏡視下治療 施行日		520 UICC cN	
300 原発部位 《局在コード》		715 鏡視下治療 (開始前・他施設)		530 UICC cM	
309 原発部位 《テキスト》		716 鏡視下治療 (開始後・他施設)		540 UICC c付加因子	
310 側性		720 内視鏡的治療		500 UICC cステージ	
320 病理診断 《形態コード》		721 内視鏡的治療 施行日			
329 病理診断 《テキスト》		725 内視鏡的治療 (開始前・他施設)		610 UICC pT	
330 診断根拠		726 内視鏡的治療 (開始後・他施設)		620 UICC pN	
350 当該腫瘍初診日		730 観血的治療範囲		630 UICC pM	
360 他施設診断日		740 放射線療法		640 UICC p付加因子	
370 自施設診断日		741 放射線療法 施行日		600 UICC pステージ	
380 診断日		745 放射線療法 (開始前・他施設)			
400 診断施設		746 放射線療法 (開始後・他施設)		550 規約肝cステージ	
410 治療施設		750 化学療法			
420 症例区分		751 化学療法 施行日		580 c進展度	
450 来院経路		755 化学療法 (開始前・他施設)		680 p進展度	
460 発見経緯		756 化学療法 (開始後・他施設)			
470 病名告知の有無		760 内分泌療法			
700 外科的治療		761 内分泌療法 施行日			
701 外科的治療 施行日		765 内分泌療法 (開始前・他施設)			
705 外科的治療 (開始前・他施設)		766 内分泌療法 (開始後・他施設)			
706 外科的治療 (開始後・他施設)		770 その他の治療			
		775 その他の治療 (開始前・他施設)			
		776 その他の治療 (開始後・他施設)			
		780 経過観察選択			
		790 緩和的治療			

<症例 3> 59 歳 女性

【現病歴】

2023 年 3 月上旬から右上腹部痛があり、痛みが強くなってきたため、3 月 30 日近医 F 病院を受診。
超音波検査で胆嚢腫瘍を指摘され、精査・加療目的に当院紹介。

【経過】

2023 年 4 月 4 日 当院消化器外科を紹介初診。
全身倦怠感も強く黄疸がみられるため、入院し減黄術(PTCD)施行。

2023 年 4 月 7 日 PTCD 施行時の胆汁細胞診から、adenocarcinoma と診断。

2023 年 4 月 8 日 上腹部 CT、MRI 施行。
所見:胆嚢から肝門部方向に浸潤する 80mm 径の腫瘍を認める。
胆嚢周囲の結合組織への進展が認められるが、肝への浸潤は認めない。
腹腔側では十二指腸への進展がみられます。肝門部にリンパ節腫大を認め、
転移と考えます。他臓器への転移所見は認めません。

2023 年 4 月 12 日 胆嚢癌の診断で、手術と術後に放射線照射を行うことを、本人・家族に説明。
黄疸も落ち着いているので、手術まで一旦退院。

2023 年 4 月 25 日 手術目的に入院。

2023 年 4 月 26 日 肝床合併胆嚢切除、膵頭十二指腸切除術を施行。

2023 年 5 月 12 日 術後放射線照射開始。

2023 年 5 月 17 日 経過良好にて退院。

《病理報告》

Adenocarcinoma, well differentiated type

胆嚢体部を中心に 80 × 60 × 30mm の腫瘍で、円柱状上皮からなる管腔形成を認める。

腫瘍は肝実質にわずかに浸潤しており、十二指腸への浸潤も認めます。

リンパ節転移 #12b:2/5, #12c:2/3, #12h:1/2, #12a:0/2, #12p:0/1, #13a:0/2, #13b:0/2

PV0, A0, DM0, HM0, EM0

症例番号

110 重複番号		710 鏡視下治療		510 UICC cT	
140 性別		711 鏡視下治療 施行日		520 UICC cN	
300 原発部位 《局在コード》		715 鏡視下治療 (開始前・他施設)		530 UICC cM	
309 原発部位 《テキスト》		716 鏡視下治療 (開始後・他施設)		540 UICC c付加因子	
310 側性		720 内視鏡的治療		500 UICC cステージ	
320 病理診断 《形態コード》		721 内視鏡的治療 施行日			
329 病理診断 《テキスト》		725 内視鏡的治療 (開始前・他施設)		610 UICC pT	
330 診断根拠		726 内視鏡的治療 (開始後・他施設)		620 UICC pN	
350 当該腫瘍初診日		730 観血的治療範囲		630 UICC pM	
360 他施設診断日		740 放射線療法		640 UICC p付加因子	
370 自施設診断日		741 放射線療法 施行日		600 UICC pステージ	
380 診断日		745 放射線療法 (開始前・他施設)			
400 診断施設		746 放射線療法 (開始後・他施設)		550 規約肝cステージ	
410 治療施設		750 化学療法			
420 症例区分		751 化学療法 施行日		580 c進展度	
450 来院経路		755 化学療法 (開始前・他施設)		680 p進展度	
460 発見経緯		756 化学療法 (開始後・他施設)			
470 病名告知の有無		760 内分泌療法			
700 外科的治療		761 内分泌療法 施行日			
701 外科的治療 施行日		765 内分泌療法 (開始前・他施設)			
705 外科的治療 (開始前・他施設)		766 内分泌療法 (開始後・他施設)			
706 外科的治療 (開始後・他施設)		770 その他の治療			
		775 その他の治療 (開始前・他施設)			
		776 その他の治療 (開始後・他施設)			
		780 経過観察選択			
		790 緩和的治療			

<症例 4> 66 歳 男性

【現病歴】

全身倦怠感を主訴に 2023 年 2 月 7 日 C 病院を受診。2 月 10 日腹部超音波検査施行。肝内胆管の拡張、肝門部に腫瘍性病変を認めため、精査・加療目的に当院紹介。

【経過】

2023 年 2 月 22 日 当院紹介受診。
2023 年 3 月 2 日 腹部超音波検査施行。
所見:総肝管分岐部から左肝管方向に 6cm 径の腫瘍性病変を認めた
2023 年 3 月 3 日 腹部 CT、MRI 施行。
所見:総肝管分岐部から左肝管に狭窄を認める。腫瘍の門脈左枝への進展を認める。肝門部リンパ節に複数の腫大を認め、リンパ節転移と考える。
2023 年 3 月 8 日 ERCP 施行。所見:総肝管分岐部の狭窄を認めた。肝内胆管の拡張がみられた。
2023 年 3 月 14 日 諸検査の所見より、肝門部胆管癌と診断。外科的に治療する方針とし、術前処置として門脈塞栓術を行い、その 3 週間後に左葉切除術を行うことを本人、家族に説明した。
2023 年 3 月 27 日 治療目的に入院。
2023 年 3 月 28 日 門脈塞栓術施行。
2023 年 3 月 31 日 手術まで一旦退院。
2023 年 4 月 17 日 手術目的に入院。
2023 年 4 月 18 日 手術施行(肝拡大左葉切除術)。
2023 年 5 月 8 日 経過良好にて退院。

《病理報告》

Adenocarcinoma, well differentiated type

腫瘍は、60×50×35mm で、異型上皮細胞が腺管状に増殖浸潤しており、深達度は ss。

腫瘍が接している門脈左枝への浸潤を認める。肝十二指腸間膜への進展は見られない。断端は陰性。

Bp, T3, PV1, A0, INFb, HM0, PM0, EM0, R0

pN1: (4/13, #12b 1/3, #12c 0/2, #12h 3/5, #12p 0/3)

症例番号

110 重複番号		710 鏡視下治療		510 UICC cT	
140 性別		711 鏡視下治療 施行日		520 UICC cN	
300 原発部位 《局在コード》		715 鏡視下治療 (開始前・他施設)		530 UICC cM	
309 原発部位 《テキスト》		716 鏡視下治療 (開始後・他施設)		540 UICC c付加因子	
310 側性		720 内視鏡的治療		500 UICC cステージ	
320 病理診断 《形態コード》		721 内視鏡的治療 施行日			
329 病理診断 《テキスト》		725 内視鏡的治療 (開始前・他施設)		610 UICC pT	
330 診断根拠		726 内視鏡的治療 (開始後・他施設)		620 UICC pN	
350 当該腫瘍初診日		730 観血的治療範囲		630 UICC pM	
360 他施設診断日		740 放射線療法		640 UICC p付加因子	
370 自施設診断日		741 放射線療法 施行日		600 UICC pステージ	
380 診断日		745 放射線療法 (開始前・他施設)			
400 診断施設		746 放射線療法 (開始後・他施設)		550 規約肝cステージ	
410 治療施設		750 化学療法			
420 症例区分		751 化学療法 施行日		580 c進展度	
450 来院経路		755 化学療法 (開始前・他施設)		680 p進展度	
460 発見経緯		756 化学療法 (開始後・他施設)			
470 病名告知の有無		760 内分泌療法			
700 外科的治療		761 内分泌療法 施行日			
701 外科的治療 施行日		765 内分泌療法 (開始前・他施設)			
705 外科的治療 (開始前・他施設)		766 内分泌療法 (開始後・他施設)			
706 外科的治療 (開始後・他施設)		770 その他の治療			
		775 その他の治療 (開始前・他施設)			
		776 その他の治療 (開始後・他施設)			
		780 経過観察選択			
		790 緩和的治療			

<症例 5> 58歳 女性

【現病歴】

倦怠感を主訴に 2023 年 3 月 13 日 D 病院を受診。黄疸症状があったため、腹部超音波検査施行。
胆管腫瘍を認め、精査・加療目的に、当院紹介。

【経過】

2023 年 3 月 23 日 当院紹介初診。血液検査施行。
2023 年 3 月 27 日 CA19-9 は 1000IU/ml と高値。
腹部超音波検査施行。臍上縁当たりの胆管内に境界明瞭な 20×15mm 径の腫瘍を認め、肝側の胆管拡張を認めた。
2023 年 4 月 4 日 腹部造影 CT 施行。
臍上縁を中心に全周性に壁肥厚を認める。周囲リンパ節転移や他臓器への転移所見は認めない。
2023 年 4 月 10 日 ERCP 施行。胆管内一部に全周性の壁不整像が認められ、狭窄していた。
狭窄部から生検施行。ENBD 施行し、検査終了。
2023 年 4 月 18 日 生検結果は「Adenocarcinoma」。
生検、画像検査から遠位胆管癌(T1b(FM))と診断。黄疸症状が落ち着いたら手術を行う旨、本人と家族に説明。
2023 年 5 月 9 日 治療目的に入院。
2023 年 5 月 10 日 臍頭十二指腸切除術施行。
2023 年 5 月 25 日 経過良好にて退院。

《病理報告》

Adenocarcinoma, moderately differentiated type

腫瘍は 22×18mm で、不規則な腺腔形成が見られる。胆管壁周囲の結合組織への進展も認めます。

Bd, pT2(SS), PV0, A0, INFb, HM0, EM0, R0

pN1: (2/15, #12b 1/3, #12p 1/3, #13a 0/3, #13b 0/2, #17a 0/2, #17b 0/2)

症例番号

110 重複番号		710 鏡視下治療		510 UICC cT	
140 性別		711 鏡視下治療 施行日		520 UICC cN	
300 原発部位 《局在コード》		715 鏡視下治療 (開始前・他施設)		530 UICC cM	
309 原発部位 《テキスト》		716 鏡視下治療 (開始後・他施設)		540 UICC c付加因子	
310 側性		720 内視鏡的治療		500 UICC cステージ	
320 病理診断 《形態コード》		721 内視鏡的治療 施行日			
329 病理診断 《テキスト》		725 内視鏡的治療 (開始前・他施設)		610 UICC pT	
330 診断根拠		726 内視鏡的治療 (開始後・他施設)		620 UICC pN	
350 当該腫瘍初診日		730 観血的治療範囲		630 UICC pM	
360 他施設診断日		740 放射線療法		640 UICC p付加因子	
370 自施設診断日		741 放射線療法 施行日		600 UICC pステージ	
380 診断日		745 放射線療法 (開始前・他施設)			
400 診断施設		746 放射線療法 (開始後・他施設)		550 規約肝cステージ	
410 治療施設		750 化学療法			
420 症例区分		751 化学療法 施行日		580 c進展度	
450 来院経路		755 化学療法 (開始前・他施設)		680 p進展度	
460 発見経緯		756 化学療法 (開始後・他施設)			
470 病名告知の有無		760 内分泌療法			
700 外科的治療		761 内分泌療法 施行日			
701 外科的治療 施行日		765 内分泌療法 (開始前・他施設)			
705 外科的治療 (開始前・他施設)		766 内分泌療法 (開始後・他施設)			
706 外科的治療 (開始後・他施設)		770 その他の治療			
		775 その他の治療 (開始前・他施設)			
		776 その他の治療 (開始後・他施設)			
		780 経過観察選択			
		790 緩和的治療			

<症例 6> 68歳 男性

【現病歴】

2023年1月中旬から背部痛があり、2月になって黄疸がでてきたため、2月10日A病院受診。血液検査で高アミラーゼ血症を認めた。2月14日上部消化管内視鏡検査施行。十二指腸球部までに特に異常所見はなかった。2月20日上腹部CT施行。「所見：膵頭部に45mm径の境界不明瞭な腫瘤を認めた。膵前面周囲組織、十二指腸に進展がみられる。膵頭前部のリンパ節に転移と考える腫大を認める。」膵頭部癌の診断で、精査、治療目的に当院外科に紹介。

【経過】

2023年3月1日 当院紹介初診。
2023年3月6日 MRCP施行。主膵管の閉塞と共に、末梢膵管の拡張も認めた。
2023年3月9日 A病院での上腹部CTと合わせ、膵癌と診断。
閉塞性黄疸に対して、減黄術(PTBD)を行い、その後手術治療を行う。
手術結果によっては、術後化学療法を追加することを本人と家族に説明した。
2023年3月16日 治療目的に入院。PTBD施行。
2023年3月22日 拡大膵頭十二指腸切除術施行。
2023年3月28日 手術病理所見から、術後化学療法を行うことになった。
2023年3月29日 化学療法開始。
2023年4月11日 経過良好にて退院。

<<病理報告>>

Adenocarcinoma, moderately differentiated type

腫瘍は膵頭部に存在し、40×45mm径の膵管癌です。

一部、十二指腸に浸潤しています。膵前面の結合組織への進展も認めます。断端陰性。

pN1b: #6:0/2, #8a:0/2, #8p:0/1, #12a:0/2, #12b:0/1, #12p:0/2, #14p:0/1, #14d:0/2, #13a:0/2,

#13b:2/2, #17a:1/2, #17b:1/3

症例番号

110 重複番号		710 鏡視下治療		510 UICC cT	
140 性別		711 鏡視下治療 施行日		520 UICC cN	
300 原発部位 《局在コード》		715 鏡視下治療 (開始前・他施設)		530 UICC cM	
309 原発部位 《テキスト》		716 鏡視下治療 (開始後・他施設)		540 UICC c付加因子	
310 側性		720 内視鏡的治療		500 UICC cステージ	
320 病理診断 《形態コード》		721 内視鏡的治療 施行日			
329 病理診断 《テキスト》		725 内視鏡的治療 (開始前・他施設)		610 UICC pT	
330 診断根拠		726 内視鏡的治療 (開始後・他施設)		620 UICC pN	
350 当該腫瘍初診日		730 観血的治療範囲		630 UICC pM	
360 他施設診断日		740 放射線療法		640 UICC p付加因子	
370 自施設診断日		741 放射線療法 施行日		600 UICC pステージ	
380 診断日		745 放射線療法 (開始前・他施設)			
400 診断施設		746 放射線療法 (開始後・他施設)		550 規約肝cステージ	
410 治療施設		750 化学療法			
420 症例区分		751 化学療法 施行日		580 c進展度	
450 来院経路		755 化学療法 (開始前・他施設)		680 p進展度	
460 発見経緯		756 化学療法 (開始後・他施設)			
470 病名告知の有無		760 内分泌療法			
700 外科的治療		761 内分泌療法 施行日			
701 外科的治療 施行日		765 内分泌療法 (開始前・他施設)			
705 外科的治療 (開始前・他施設)		766 内分泌療法 (開始後・他施設)			
706 外科的治療 (開始後・他施設)		770 その他の治療			
		775 その他の治療 (開始前・他施設)			
		776 その他の治療 (開始後・他施設)			
		780 経過観察選択			
		790 緩和的治療			